

JAQG 協賛メンバー訪問 ―ナカノアビエーション株式会社様―

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。

2026 年 7 月 30 日、この企画の第 4 弾として、ナカノアビエーション株式会社様（愛知県名古屋市）への訪問を実施いたしました。

2. ナカノアビエーション株式会社様のご紹介

同社は 1990 年創立、資本金 2,400 万円、従業員 31 名（海外含む）の会社です。航空宇宙関連の材料の輸入販売と言う商社機能が主ですが、一部機器の製造も行っている所に特徴があります。

三菱重工業(株)様との関係が深く、社長の岡田様、ご対応いただいた柴田様は三菱重工業(株)の OB で特に柴田様は JAQG、JPMC でもご活躍頂いた OB でもあって、今回訪問した渡辺様や西口様とは顔見知りでありましたので、非常に和やかな雰囲気での面談を行うことができました。

当日は柴田様、丹羽様にご対応いただきました。JAQG からは三菱重工業(株) 渡辺主幹、西口課長、ナブテスコ(株)安田部長、SJAC 城福が訪問いたしました。



(左から) 城福 (SJAC)、安田氏 (ナブテスコ)、西口氏、渡辺氏 (三菱重工業)、柴田氏 (ナカノアビエーション) (右から) 丹羽氏 (ナカノアビエーション)、および事務所の皆様

3. JAQG 説明

対面ならではのオープンでフランクな雰囲気のもと、担当者の実体験や言葉を交えた解説を行いました。



3.1 JAQG/IAQG 紹介（説明者：SJAC 城福）

IAQG/JAQG の活動概要、ボランティアベースでの運営体制、規格開発への主体的な参画について説明し、日常的な疑問や要望の窓口としての JAQG をアピールしました。

3.2 規格の最新動向（説明者：三菱重工業㈱ 西口氏）

9100 規格の改訂動向を解説しました。説明者の西口氏は IAQG の 9100 規格作成チームに参加しており、9100 改定案の背景も含めて説明し、活発な議論が交わされました。

- ・ AI 使用については、AI からのアウトプットを人間が検証する等、管理レベルを設定することが要求される
- ・ 情報セキュリティについては、すでに顧客から厳しく要求されており、追加作業は少ないかもしれない
- ・ 文書化した情報の保持については、何を外部提供者に伝達したのかの記録が重要
- ・ Sub-tier 管理については、全てをプライムが管理するという訳ではないが、フローダウンされているか確認することが大事
- ・ 要求拡大されている項目については、前回改定で追加された際に注記とされていたものが、10 年経過して定着したものと捉え、要求に格上げされたと考えてもらえば良い
- ・ APQP/PPAP は新項目なので、いきなり要求とせず注記とされている。

また、今回の改定で JIS 規格から IAQG 規格となりますが、それに合わせて JIS Q 9100 の末尾に示されている解説はなくなります。

ナカノアビエーション様からは、この解説は有用なので何らかの形で残せないかのご要望を頂きました。確約は難しいのですが、ご活用されているメンバーが多いようであれば、JAQG にて対応について検討いたします。

3.3 9150 規格およびツール紹介（説明者：三菱重工業㈱ 西口氏）

IAQG が中小企業向けに開発中の 9150 規格概要を紹介しました。9150 は 9100 と異なり、9150 を取得しても 9001 を取得したことにはならない。航空専業で 9001 を必要としない中小規模の組織にとって有用ですが、該当する日本の組織は少ないかもしれないという議論がありました。

4. 意見交換

活発な意見交換が行われました。

4.1 9100 と 9120 について

会社紹介で述べた通り、ナカノアビエーション様は航空材料を取り扱う商社機能を主としていますが、一部装置製造もおこなっておられます。現在は 9100 規格のみでよいのですが、認証の厳格化が求められると、商社機能としては 9120、装置製造機能としては 9100 が必要となるのか、そうすると 2 つの認証を持たねばならず維持が大変と言う議論がありました。これについては IAQG 内で議論を続けることになりますが、課題としては十分に認識されました。

4.2 新規発注先の開拓について

業務内容次第ですが、特殊な技術が必要とされる作業について発注先が限定され、ナカノアビエーション様の規模ではなかなか受けてもらえない場合があつて困るときがあるとのことでした。

4.3 JAQG メンバーの声の拾い方について

この協賛メンバー訪問を企画した理由の一つでもあります。やはり JAQG 活動報告会では、質問のタイミングが難しいという印象はお持ちのようで、意見を出しやすい活動報告会の在り方については、今後も模索しようと考えています。

また、JAQG HP から随時お問い合わせ (<https://jaqg.sjac.or.jp/contact.html>) を受け付けていますが、応答までに時間がかかっているのが課題となっています。問い合わせの内容の把握に時間がかかることも一つの要因であり、今後質問者の方と臨時でオンライン会議等を開催し、質問内容の迅速な把握を図るなどの対応についても検討しようと思います。

5. ナカノアビエーション株式会社様からの声

この度は、貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。弊社は 2024 年より協賛メンバーとして JAQG に参加し、SCMH をはじめとする各種資料の活用や活動報告会への参加を通じて、有益な情報を得ております。一方で、報告会等の場では弊社固有の課題について質問しにくい面もあるため、今回の様に直接意見交換できる機会は大変有意義であったと感じております。今後このような活動が継続されることを期待しております。改めまして、ご多忙の中、弊社をご訪問いただき、誠にありがとうございました。

6. 最後に

お忙しい中お時間を割いていただいたナカノアビエーション株式会社の皆様には、改めて感謝申し上げます。9100、9120 といった認証制度の課題や 9100 の改定内容についての懸念や疑問点についても意見交換ができ、双方にとって有意義なものとなりました。

また、顔を合わせて話ができただことで、JAQG への親近感を持っていただき、要望等を伝えやすい環境造りができたのであれば幸いです。

以上